

日付のある写真集

ロンドン、バルセロナ、ローマ

写真・文 おじゃら りか



日付のある写真集

アタシは旅に出た。
何故、
旅に出たのかと言えば、
若かったからかもしれない。

今では『バブル』と呼ばれているその時代、
アルバイトの時間給は
千二百五十円。
4時間働いて、
五千円稼ぐことができた。
毎日4時間のアルバイトをしては、
帰りに、
靴やらスカートを買う。
一万五千円の買い物は、
『3日働けば買えるから。』
と考える。



日付のある写真集

買ってきた品物は、

部屋のあちこちに詰め込まれ

そうなるし、

もう、

ミイラのようなものである。

客に買ってもらおうという、

資本主義の最終目的を果たした

そいつらは、

増えるばかりで、

大して使いもしなかった。



日付のある写真集

バッグだって、

お靴だって、

お洋服だって、

一日に一個しか使えないんだよなあ。

そんな消費生活に疑問を感じたのは、

大学三年の夏だった。

これじゃ、何にも残らないよ。

大学時代の思い出は？

と聞かれた答えるが、

毎日バイトしてましたじゃ、

情けない。

バイトの思い出なんて、

要らないもんなあ。



アタシは考えた。

青春時代に花を添えるのは、

『旅』と決まっている。

アタシは、金を貯めることにした。

別に、ケチケチしていたワケじゃないと思う。

大学生だもの。

フツーにバイトして、

フツーに、飲み食いして、

家に金を入れるワケでもなく、

残りをフツーに、

貯金していたんだと思う。

いわゆる苦学生ではなくて、

お気楽で恵まれた、

甘ったれた

大学生であったことには間違いはない。



日付のある写真集

この頃、

サントリーのコマージュシャルが

目に飛び込んできた。

異様な風景の中で、

異様な道化師が踊る、

異様なコマージュシャルである。

その映像は、

脳裏に焼きつき、

いつまでも気になっていた。

一体何処なんだらう。

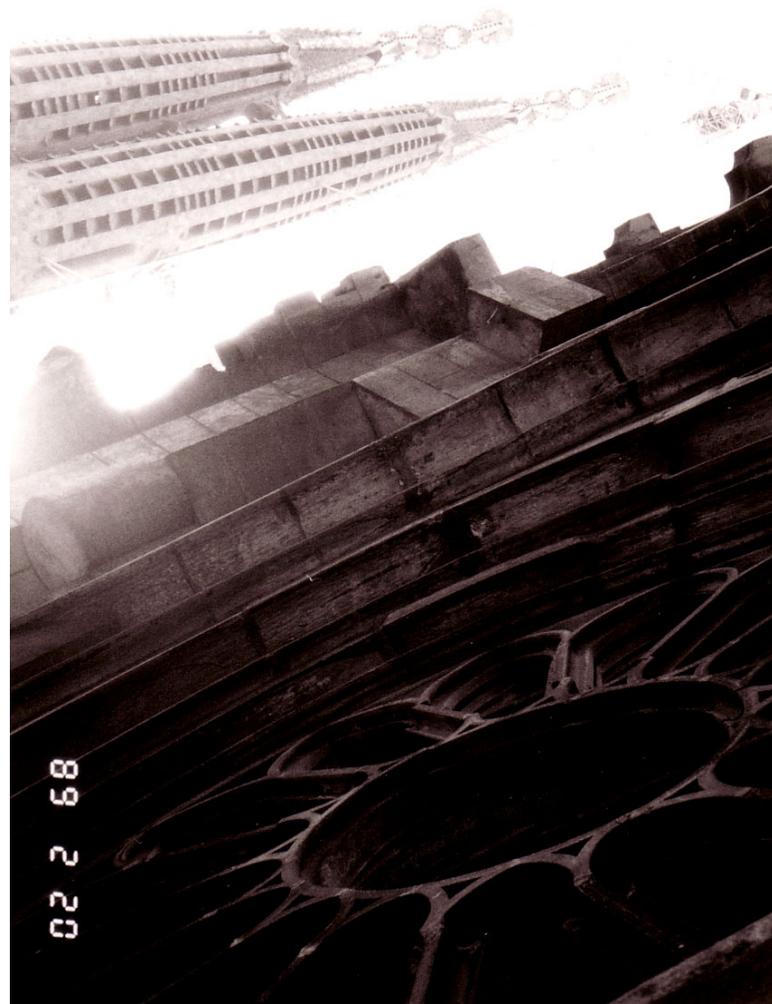
『あそっはスペインだよ』

と教えてくれた人がいた。

ガウディという人が作った、

サクラダファリアだよと。





アタシは、

スペインに行きたいと思った。

お金を貯めて、

スペインで、

あの場所に立ってみたい。

毎日コツコツと、

バイトを続けては、

授業もやらばらなくなつた。

バンドを辞めたこともあつたと思う。

今、勉強しなかつたら、

後で後悔すると思つたから。

後で後悔するのは嫌だ。

頑張れば、

きっと結果が出なくても、

後悔はしないと感じていたのだと思う。



日付のある写真集

スペイン語も、

大学で一年間勉強することにした。

無料で、

やってみたいことを勉強できるなんて、
なんて素晴らしい場所なんだろうと、
初めて感じた瞬間だった。

卒業単位に含まれない科目だったから、
生徒はたった三人キリ。

恵まれた環境だったと思う。

毎日、スペイン語のカセットばかりを
聞いて過っしっていた。



日付のある写真集

一緒にスペインに行こうと

約束していた友達は、

スキーセットを買って、

彼とスキーに行ってしまったので、

スペインには、

一人で行くことになった。

アタシは、女の友情に対しても

勉強できた。

女の人生は男次第である。

女同士の約束に、

期待しすぎてはいけない。



きままな一人旅なので、

小さなカメラを

持ってゆくことにした。

小さいスケッチブックを二冊、

筆ペンと、小さい色鉛筆の箱を

スワツケースに入れた。

小さな私は、旅に出た。

一年卒業が遅れた先輩が、
卒業旅行でロンドンに行くという。
スペインまでは、

どこかの大都市で飛行機を
乗り換えなければならぬ。

アタシも、センパイと同じ飛行機で
ロンドンに発つことに決める。

外国の旅のプランの立て方や、
安いチケットの情報なんかを
教えてくれて、助かった。

先輩と、センパイの友達二人とアタシ。
センパイは、今、何処にいるんだろう。

Greek Armour



Greek warrior about to pour an offering of wine to the gods from a shallow bowl called a phiale

ロンドンでは、

大英博物館に行き、

世界中から盗んできた秘宝を拝み、

ローストビーフやターキーを食べる。

夜は、演劇などを見て、

丸い頭のタクシーで宿まで帰る。

安宿ばかりを載せるガイドブックのその
宿は、安宿らしく、何もなく、一人で
部屋を借りた私には高かった。

ス。ヘインまで金が持たないと感じた私
は、一週間のロンドン滞在を三日で切り
上げ、バルセロナ行きの飛行機に乗り
込んだ。





日付のある写真集

スペインに到着すると、

何もかもが眠っていた。

まるで、眠りの国に来てしまったように、

何もかもが『シン』と静まって、

石畳を行く

スツツケースの音だけが、

アタシの周りにかすかに響くだけなのだ。



スペインでは、

まだ、見たことのない友と待ち合わせた。

一人で一ヶ月の間、

知らない人の中にいるのは不安がある。

スペイン語の授業で、

センセイの、他の大学の生徒さんも、

スペインに行くという話しを聞き、

みんなで、午前中だけの学校に

行くことに決める。

ホームステイ、二食、午前中のスペイン語の

語学カリキュラム込みで、

二週間で5万円程だった。



泊まり先や、仲間がいると、

何か嬉しく、心強いものである。

彼女達とは、スペインの語学学校で

初めて合流することになった。

初めての場所で、初めて会う友。

何もかも新しく、心が浮き立つ時間だった。

みんな、今、どうしているんだろう？

午前中は、

スペイン語を軽く練習し、

午後は、街に繰り出して

語学学習の成果を試す。

地図と、美術館がタダになる学生証、

それから、カメラと小銭を持って、

どんどんバルセローナを歩く。



日付のある写真集

一番のお気に入りには、

コロンブスの塔がある

港であったのかもしれない。

授業が終わると、時には友達と、

時には一人で、ランブラス通りに向かい、

途中の市場で、パンとハムとチーズを

一切れずつ買う。

弁当持参で、港の景色のよい所まで歩いて、

そうして、昼飯を食べる。

柔らかい地中海の風は、

心地よくアタシを包んでくれた。

食事をしながら、地図を見て、

今日行く街や、美術館を決める。



一人で旅をしていると、

やっぱり一人で旅に出た、

卒業旅行の学生に、声を掛けられる。

割り勘でボートに乗ろうと誘われたり、

言葉が通じないから、レストランで、

食事をさせてくれと頼まれたり。



ある日の私は、ガウディの中で迷う。

サグラダ ファミリアの中は冷んやりと暗い。

実の所、間違えて買ってしまった

高感度のモノクロフィルムをカメラに入れて、

今日ばかりは、写真家気取り。

世界に名高い建築物の周りはいつも、

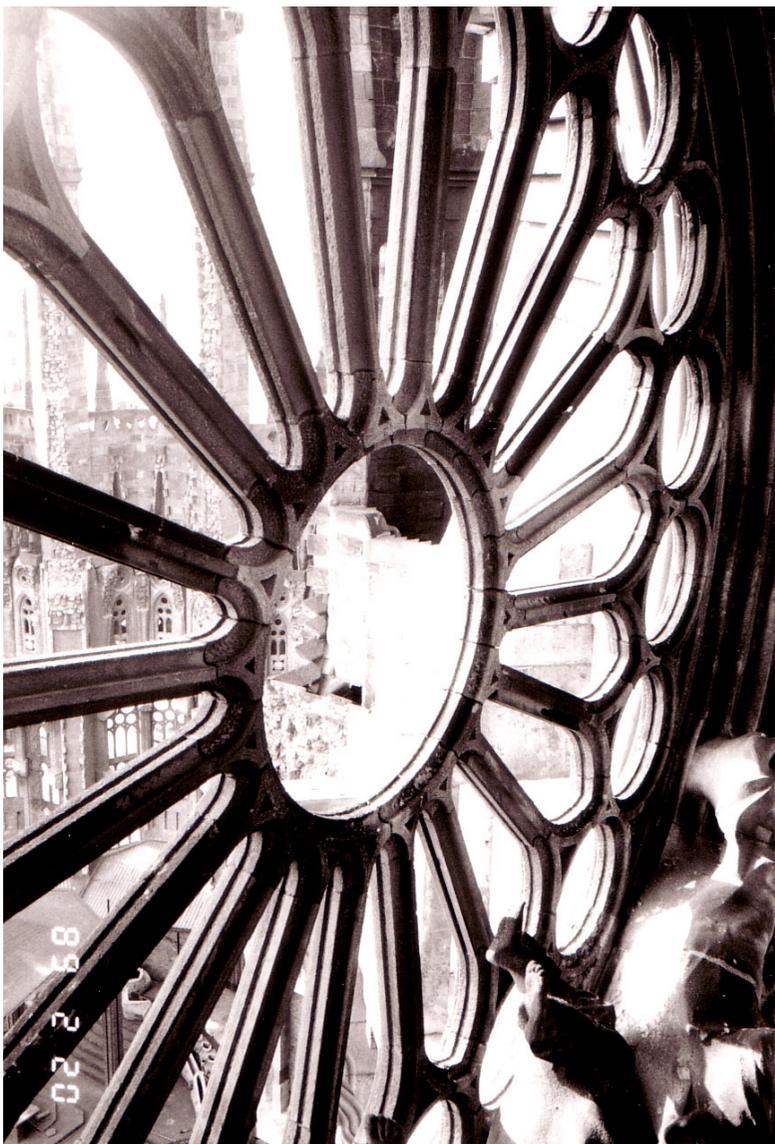
若いカメラマンで賑わっていた。



寝転んだら、どんな風に撮れるんだろう。

誰もが猫のように伸び縮みをして、
写真を撮っているのである。

人生の傑作をシャッターに収めようと
寝転んだり、背伸びをしたりして



空が青い日には、塔のトップベンまで昇ってみる。

エレベーターもあるし、階段もある。

途中まではエレベーターに乗り、

もつと上までは、

歩いて登った記憶がある。

上に行くに従って、

どんどんと姿を変えてゆく建物。



そうして、塔の中でも、

若いカメラマンが、

イロイロな場所に登っては、

いろんなポーズで写真を撮っているのだった。

夢があるって、いいなあ。

ここにきて、ヨカッタ。



日付のある写真集

ある日のアタシは、
モンジュイックの丘の上。
モンジュイックの丘には、
とロ美術館と、
ガウディが設計した
グエル公園がある。
地下鉄を降りて、
小高い丘の上まで
長いこと、登らなくてはならない。
そうして、丘の上からは、
バルセローナが見下ろせて、
中央には、サグラダファミリアが
小さく、ぼんやりと見えるのだ。



日付のある写真集

この美術館では、展示されている、
全ての作品を、

小さいスケッチブックに描きこんだ。

アタシのことだから、

『この程度なら、アタシにも描けるかも』
と思っただに違いない。

筆ペンで線を作り、

色鉛筆で色を塗る。

小さくなくても、

このように動いているような

それなりの抽象画となり、

アタシのスペインの土産になった。



日付のある写真集

ピカソ美術館には二回行く。

薄暗いジプシーの路地を通らなければ、
たどり着けない美術館である。

マドリーの、プラード美術館。ピカソ別館
よりも、数段素晴らしい作品が並ぶ。

命がけの、ピカソへの道である。

ここでは、キュビズムの作品を転写する。

ふーん。

こんなふうに面が分解されてるのか。

ぼんやりとそんなことを考えながら、

伝統絵画から、開放されてゆく彼の作
品を、何時間も眺めていたのだった。



日付のある写真集

ある日の、アタシは、虹の下にいる。

バルセローナには、大小の美術館がいくつ

もあり、地下鉄の駅から、途方もなく歩

かされ、目的地に着くまでの間に、写真

を撮る。



日付のある写真集



日付のある写真集

考古学博物館、恐竜博物館、宗教画美術館、近代絵画美術館。
絵を見た後には、当てもなく、街を放浪する。
何を探すでもなく、誰かを訪ねるわけもなく、知らない場所を一人で歩いている。
そんな貴重な時間だった。

公園にいる子供達は、

絵本の中から

飛び出てきたような、

赤い長靴下を履き、

大勢で飛び跳ねている。

そこには、街灯がある。



ゴツホのような系杉が、突然現れる。

『ホントウにこんな形をしているのか。』

夕日を正面に一枚撮影してみる。

炎のようなシルエットは、

寄り添うように集まっています。

大きな彫刻のように見えた。





そうしてまた少し行くと、

今度は、ペイネの詩の絵と同じ、

大きく枝を広げた

扇形の木と出会う。

こんな木が、

こんなに身近に立っているから、

詩や絵が勝手に浮かんでくるのか。

感性というのは、

日々の環境の中で、知らぬ間に

磨かれるものなのかもしれない。

コンクリートの中には、

絵が描けないのも、

当然のような気がしてくる。



日付のある写真集



ある日の私は恋に落ちる。

火傷のような、

旅に出た猫の、ケンカのような、

ガウディの塔に住む鳩のような、

まるで、巻き込まれ型の映画か何かのよ

うな恋で、撮影はその間中断された。

遂に旅は終わり、私は帰国の便に乗る。



ローマでは、飛行機に乗り遅れ、
やっぱり、飛行機に乗り遅れた、
もう一人の女性と宿を伴にした。
途中で金が尽きてしまい、
彼女に小金を借りたり、
その金で、場末のピザをほおばる私が出た。
結局旅は、予定通りに継続されたのだ。



街を放浪していると、ローマの神々が、
同じ方向を見下ろして並んでいた。
アタシも、神々の間に立ってみる。



日付のある写真集

神々の前には、

ローマの街が広がっていた。

赤い屋根が連なる、

レンガ造りのその街は、

三百六十度、ローマなのである。

うっすらと丸い地球や、

あちらうちらから、

この広場に集まる道、

オモチヤのような小さくなった車や、

アリのように小さい人間を見下ろして、

ローマ神達は、笑っているようだった。

スつと風が吹き抜けた。



日付のある写真集

スペインとは違う、
異国の風を顔に受けながら、
私は歩き続けた。
金も持っていないくせに、
スリに合わないかと心配したりする。
川つ縁で、麻薬を勧められたりもする。

心の隙間には、

イロイロなものが飛び込んできては、

カメラの中や、思い出という記憶の中に

閉じ込められていった。

フィルムはネガや写真となり、そうして、

もう長い時間、何事もなかったように、

涼しい顔をして押入れの中に居た。



日付のある写真集

ある日、心の封印は解かれ、

旅の記憶は本になった。

開けば、脳裏に当時のことが蘇ってくる。

たった今、旅をして帰ってきたような、

異国の風が、まだ、頬に残っているような、

そんな気持ちにさせてくれる。



写真とは、

私を、私の青春時代に帰してくれる、

タイムマシンなのかもしれない。



私は、こんな写真集を、

いくつも見てみたいと思う。

二〇〇三年 九月

写真と文

おじやら

りか

おじゃら・ねつとの本



電子旅行記 『日付のある写真集』

ロンドン、バルセロナ、ローマ

(PDF版 無料 CD版 五百円)

二〇〇三年 九月 六日 発行

写真と文 おじゃらりか

発行者 小山田 理花

発行所 有限会社 おじゃら

〒一〇〇〇三〇〇三〇

東京都足立区千住四・七・六

E-Mail:rica@ojara.net

<http://www.ojara.net>

ISBN4-901941-12-7 C0826-¥500E

© おじゃらりか

お気づきの個所がございましたら、ご面倒様でも、
E-mailにてお知らせください。
よろしくお願い致します。

電子本 『自前出版』してみませんか？

パソコン(ワードとアcroバツ)で作るカンタン・激安 "e-Book"

カンタンに電子車に変換できる
ワード文書
『基本のフォーマット』
のおまけつき。



この車は、PDFファイルで作成されており、車を読むのには、
Adobe社のアcroバツリーダー 4.0TM以上が必要です。

電子本 自前出版してみませんか？

パソコン(ワードとアcroバツ)で作るカンタン・激安 "e-Book"

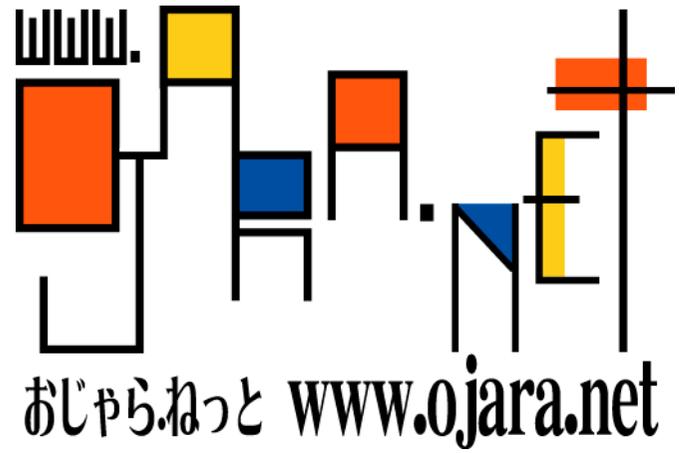
図書コードもつけて、車はあつという間に完成です。編著 おじやら りか

CD-ROM版 1200 円， ISBN 4-901941-10-0 C3800 ¥1200E

PDF版 700 円， ISBN 4-901941-09-7 C3800 ¥700E



おじやら・ねつこの他の本



ISBN4-901941-12-7 C0826 ¥0500E